

受付番号	10		
許可番号	大歯医倫 第 110978 号		
研究課題名	歯科衛生学教育に取り入れるべき教育内容を検討する研究—介護保険施設での活動に向けて—		
研究責任者	田中 昭男	申請者	田中 昭男
研究終了日	2020 年 3 月 31 日		
所 属	大阪歯科大学 歯科衛生士専門学校	所 属	大阪歯科大学 歯科衛生士専門学校
職 名	校長	職 名	校長
申請の概要			

2010 年 4 月、全ての歯科衛生士養成機関の教育年限は 3 年以上に変更された。その趣旨としては、超高齢社会を迎え、業務内容が多様化してきたことから歯科衛生士の資質の向上と役割への期待が大きくなったことがある。

歯科衛生士の就業場所は歯科衛生士法制定当初の保健所から市町村保健センター、歯科診療所、病院へと広がり、さらには介護保険施設、居宅等へと拡大している。特に、介護保険施設における歯科衛生士の就業人数は 2006 年と 2016 年を比較すると 5.5 倍に増加しており、今後も増え続けることが予測される。

業務内容や就業場所の変化から 2012 年に作成された歯科衛生士教育の指標である「歯科衛生学教育コア・カリキュラム—教育内容ガイドライン—」においても、介護保険施設で医療・介護・福祉職といった多職種と連携することを前提とした一般目標と到達目標が示されている。歯科衛生士には多職種連携による口腔ケアや患者のニーズに応じた個別のかかわりが求められているが、現行の歯科衛生士養成機関の教育内容が十分なものであるかは明らかにされていない。

---

したがって、歯科衛生士が介護保険施設で活動する際に介護職等の施設職員とのかかわりの中で生じる問題点や課題を抽出し、歯科衛生士教育に不足している内容を明らかにすることを本研究の目的とする。それによって、今後の歯科衛生士教育に取り入れるべき教育内容を検討できるため、歯科衛生士教育の発展に寄与できると考える。